

○十二支の順番のお話

ある年末のこと。神様がこんなことを言いました。「元旦の日に、私の元へ来なさい。一番から十二番目までの者を一年間の大將にしよう。」

動物たちはそれぞれ、一番をめざして元旦の日に神様の元へ行くよう準備を始めました。猫はうっかりいつ行けばいいのかを聞き逃したのでネズミに聞いてみると、ライバルを一人でも少なくしようとしたネズミはわざと一日遅れの日を教えました。

牛は、歩くのが遅いことを自分で知っていたので、みんなより早く出発。ネズミは牛の出発を知り、楽をする為に背中にのり、のんびり神様の元へ向かうことにしました。

牛は元日前に到着。神様の門があくのを待っていました。そして、その門が開いた時、背中にいたネズミがピョン！と飛び降り一番目。ネズミを連れてきた牛は二番目となったのです。

その後、トラ、うさぎ、龍、へび、馬、ひつじ、サル、とり、犬、いのししが到着。ここで十二番目までが決まり、十二年間の大將選びが終了しました。

何も知らずに次の日についた猫はびっくり！すでに十二番目が決定しているどころかもう誰もいない。「一日騙された！」とわかった猫は怒り、ネズミを追いかけるようになりましたとき。



○酉が十二支の十番目になった理由は？

酉(とり)の由来は、神様へ新年のご挨拶に向かった十二支の動物の内、猿と犬の喧嘩を仲裁する為に、猿と犬に挟まれた十番目の干支になったんだそうです。

☆「酉年は縁起がよい」とのことなので、何か新しいことを始めてみるのもいいかもしれません。いろんな事にチャレンジ・トライする1年にしましょう！

☆生徒会役員決定

12月2日(金)の5・6限に立会演説会が行われ、その後投票が行われました。

新役員が決定し、荒川中学校生徒会に新風を注ぎ、活躍してくれることを期待しています。

生徒会長	櫻井 隆樹
副会長	岩瀬 駿佑
副会長	井上 咲南
書記長	門脇 そら



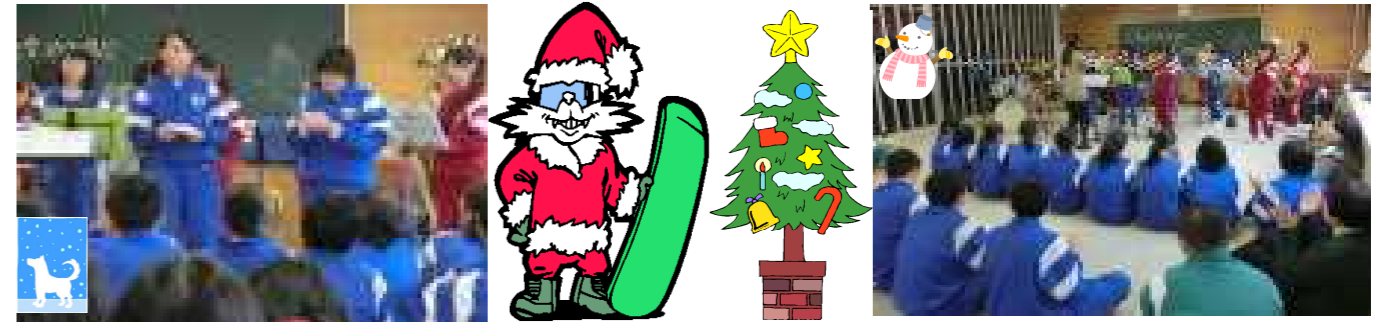
☆12月のアラカルト

○球技大会【12日(月)1年生・13日(火)2年生・14日(水)3年生】

<p>1年生：バドミントン</p>	<p>2年生：ドッジボール</p>	<p>3年生：バレーボール</p>
-------------------	-------------------	-------------------

○吹奏楽部クリスマスコンサート【19日(月)・20日(火) 昼休み 1Fオーブンスペース】

吹奏楽部と顧問の甲斐先生の「粋なはからい」でクリスマスコンサートが2日間行われました。約15分間のコンサート。19日に演奏した曲は「クリスマスメドレー(ジングルベル・赤鼻のトナカイなど)」、「ギンギラギンにさりげなく」、「前前前世」でした。ノリノリの荒中の生徒・職員、楽しい一時でした。



☆表彰

○第40回新潟県アンサンブルコンテスト中学校の部【12月10日(土)小出郷文化会館】

◇銀賞受賞 荒川中学校吹奏楽部 管楽打楽器八重奏 曲名：コタン「雪」

○いきいきわくわく科学賞2016表彰式【12月17日(土)13:30~メディア・シップ】

◇県知事賞受賞 徳富 貴大さん(3-1) 表彰作品「風車の構造と仕事率の関係Part2」



新潟県科学賞で最高賞の「県知事賞」を授賞した徳富貴大さん。そのおかげで「学校賞」も授賞することになり、私も表彰式に出席し、「学校賞」をいただけてきました。3分以内でスピーチを依頼され、授賞の喜びと感想を述べてきました。

私のスピーチの主な内容を紹介します。

表彰を受けた36の作品名を見ると「Part 2」など複数年かけて研究したものが多くありました。最大は7年かけたもので2作品あり、そこには、研究を進める中で新たな疑問がその探究心に火をつけ、納得いくまで研究しようとする情熱がうかがえました。

日本では、昨年は2人、今年は1人、ノーベル賞を授賞しました。この3人のスピーチの中に、共通した事項があることに気付きました。

1つ目は、「研究の動機・発端(疑問・好奇心等)」について。

人がやらないことを研究すること。最初に「おかしい」と思った瞬間を見逃さないこと。予想に反した結果は「これは何かある」と思うこと。興味を持ったことは絶えず考え続けるといいものが見つかるはずということ。

2つ目は、「諦めない姿勢」について。

やったことはだいたい失敗する。何度もうまくいかない経験をし、びっくりするくらいうまくいく。それを味わうと失敗が恐くなくなり、それが研究の楽しさへと変わる。失敗したから良かった。それが役に立つということ。

3つ目は、「子ども達や若人へのメッセージ(後継者への期待)」について。

この世の中には分からないことがまだまだたくさんある。大きい問題は、1日や2日の短い研究では解決できるものではなく、たくさんの方が興味を持って、長い年月をかけて解き明かしていくもの。そのような謎解きに子どもたちや若者にぜひ参加していただきたい。世の中には「あれっ?何で?」と思うことがたくさんある。その気づきを大切にすると子どもが増えてくれると、日本の科学の将来は安泰。様々なことにチャレンジする子どもが増えてくれることを望むということ。

話の結びとして、「理科好きな友達を増やそう!」ということで、映画「真夏の方程式」で福山雅治演ずる主人公と少年との会話「理科はおもしろいぞ」、「あんな地味なことばかりする勉強は嫌いだ」というやりとりと、泳げない少年が「きれいな海の中を見たい」という願いをかなえさせるため、福山がペットボトルロケットに携帯カメラを取り付け、目標地点の海中に落下させようと、何度も失敗しながら、ついには成功させるエピソードを紹介しました。きっと、あの少年は、理科が好きになったに違いないと。そんな話でスピーチを締めました。

〈県知事賞受賞者のプレゼンテーションで研究の概要を説明する徳富さん〉



☆感動話 今回は、教育界で結構知られているお話を紹介します。

「縁を生かす」

その先生が5年生の担任になった時、一人、服装が不潔でだらしなく、どうしても好きになれない少年がいた。中間記録に先生は、少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。

ある時、少年の1年生からの記録が目にとまった。「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。勉強もよくでき、将来が楽しみ」とある。「間違いだ。他の子の記録に違いない。」先生はそう思った。2年生になると、「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する」と書かれていた。3年生では、「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りをする」3年生の後半の記録には「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり、4年生になると「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり子どもに暴力をふるう」

先生の胸に激しい痛みが走った。「だめ」と決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間として自分の前に立ち現れてきたのだ。先生にとって目を開かれた瞬間だった。

放課後、先生は少年に声をかけた。「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない？わからないところは教えてあげるから。」少年は初めて笑顔を見せた。それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。授業で少年が初めて手を上げた時、先生に大きな喜びがわき起こった。少年は自信を持ち始めていた。



クリスマスの午後だった。少年が小さな包みを先生の胸に押しつけてきた。後で開けてみると、香水の瓶だった。亡くなったお母さんが使っていたものに違いない。先生はその一滴をつけ、夕暮れに少年の家を訪ねた。雑然とした部屋で一人本を読んでいた少年は、先生の胸に顔を埋めて叫んだ。「ああ、お母さんの匂い！今日はすてきなクリスマスだ。」

6年生で先生は少年の担任ではなくなった。卒業の時、先生に少年から一枚のカードが届いた。「先生は僕のお母さんのようです。」そして「今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした。」

それから6年。またカードが届いた。「明日は高校の卒業式です。僕は5年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金をもらって医学部に進学することができます。」

10年を経て、またカードが来た。そこには先生と出会えたことへの感謝と父親に叩かれた経験があるから、患者の痛みがわかる医者になれると記され、こう締めくくられていた。「僕はよく5年生の時の先生を思い出します。あのままだめになってしまう僕を救ってくださった先生を、神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、5年生の時に担任してくださった先生です。」

そして1年。届いたカードは結婚式の招待状だった。「母の席に座ってください。」と1行、書き添えられていた。



たった1年間の担任の先生との縁。その縁に少年は無限の光を見出し、それを抛り所として、それからの人生を生きた。ここにこの少年のすばらしさがある。

人は誰でも無数の縁の中に生きている。無数の縁に生まれ、人はその人生を开花させていく。大事なものは、与えられた縁をどう生かすかである。

☆3学期の主な予定

1月	10(火)	3学期始業式	3月	3(金)	第70回卒業式	3月	24(金)	3学期終業式
	27(金)	新入生説明会(午後)		7(火)	公立一般選抜		〃	公立二次合格発表
	31(火)	生徒総会		8(水)	公立独自検査		27(月)	離任式
2月	1(水)~3(金)	3年進学保護者会	3月	13(月)	公立合格発表	3月		
	6(月)・7(火)	第4回定期テスト		14(火)~16(木)	2年生修学旅行			
	20(月)	生徒朝会(三送会)		23(木)	公立二次試験			

荒川中
だより

青い雲

村上市立荒川中学校
平成28年度 第11号
平成28年12月22日発行
TEL 0254-62-3251

教育目標：「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」
 目指す学校像：「勢いとハートのある学校」(ハート=熱いハート、温かいハート、柔軟なハート)

「1年の計は元旦にあり」の本当の意味

今日で2学期が終了します。平成28年(2016年 申年)もあと僅かです。この1年、皆様にとって良い1年だったでしょうか？立てた目標を達成できたでしょうか？今年1年、頑張った自分を褒め、支えてくれた家族や周りの人達に感謝するなど、この1年をしっかり振り返りましょう。大きな節目を迎えるに当たって、「来年はこれを頑張るぞ」、「来年はこういう人になるぞ」など、新たな目標を立て、良い年を迎えましょう！



「1年の計は元旦にあり」これは、室町時代後期からの戦国時代の戦国大名であった毛利元就(もうりもととなり)の言葉です。元就は、元三(がんさん)の儀式を大切にしていました。元三とは、元旦のことです。年・月・日の三つの元(はじめ)という意味です。

元就は「何事も始めが肝心だ」と言ったのです。「この元旦から、朝寝坊して元旦の儀式をおろそかにするようではだめである」と。だから、一般に言われているように「1年の計画を元旦に立てよ」と言っているわけではありません。

元就は「1年の計は努力にあり」とも言っています。だから、「千里の道も1歩から」という意味で、「最初の1歩からぐずぐずしてはだめである」というのが本当の意味です。

「元旦(1月1日の朝)に1年の計画を立てるべし！」というのが現代では正しい意味のようですが、「何事も最初が大事！」という意味で使っている人も結構多いそうです。

皆さんは元旦をどのように迎えられるのでしょうか？1年の目標を立て、紙面に書き、毎日確認できる場所に掲示するのが良いと思います。1年の最初の日、元旦を充実した1日にすることが良いスタートであり、この継続が目標達成につながると思います。1日1日を大切に、充実した生活を送りましょう！



◇毛利元就：中国地方全域を支配下に置き、「戦国最高の知将」と呼ばれるほどの策略家であった。有名な逸話として「3本の矢」があります。3人の子どもたちに、「矢1本なら1人の力で折ることができるが、3本となったときはなかなか折れない。このように3人が力を合わせなければいけない」と教えたという有名な話。



毛利元就(もうりもととなり)

酉年へバトンタッチ



干支(えと)の十二支はかつて中国で農業を行う際に暦として使われていた農業用語で、農作物の成長過程を十二段階で表す意味を持ち、カレンダーとしての役割を果たしていました。

その十二支が江戸時代に日本に言い伝えられ、一般庶民でも分かりやすいよう十二支に動物が当てはめられ、そこから十二支が広がったと言われています。

「酉」は、「とり」と読みますが、実際には「にわとり」のことです。



○来年の干支である「酉年」(とりどし)が持つ意味

酉年の「にわとり」は、明け方に鳴く鳥です。夜が明けたら「こけこっこ〜」というのもアニメなどによくあるシーンです。「新年も1番に鳴く鳥のため縁起が良い」とされています。

さらに「商売関係に縁起のよい干支」とされています。「とり→とりこむ」で、「商売に繋がる」とされています。「行動力があり、積極的。親切で世話好きである」という意味もあります。